

社員から提出された感想文(一部抜粋)を紹介させていただきます。



考えるというのは「広げること」と「深めること」であるということ。「思う」と「考える」は違い「思う」は頭の中に浮かんでくることで「考える」は目的のために意識的に思考すること。この本を読んで気づいたことは、「考える」ことをもっと真剣にとりくみ「行動」にたどり着かなければ「考える」とは言えないということです。(太田)



高校の校長先生が書いた本で、高校生が未来を考えるヒントを与えるために先生から生徒へ語りかけるスタイルです。正解のある質問の答えはA Iが全て完璧に教えてくれたとしても、正解のない又は無数の回答がある質問にはA Iはまだ上手く回答が出来ない。それらを解決するには「情報編集力」が必要であり、それが人間に求められる能力だそうです。(関根)



40代をどのように過ごせばより良きものになるか、会社では中堅と呼ばれる人が多い中どのような立場で仕事をすれば良いのか参考になればと思いこれを選びました。40代で捨てるべき「あいうえお」が紹介されています。その中で一番必要だと感じたのは「上から目線」です。仲間から相談を受けた時に「そんなことも分からない?」と感じた時点で上から目線の言葉が出ているような気がしました。(飯原)



牧田善二先生の「医者が教える」シリーズです。AGE 牧田クリニック院長で、糖尿病をはじめとする生活習慣病や肥満治療にあたっている方。健康に必要なのは嘘を見抜ける「知性」だ!というサブタイトル通り、ハッキリとした意見が特徴的です。ただ、これを読んだ後に食料品の買い物に行くと、何を購入したらよいのか?わからなくなりました。(青木)



選んだ理由は、表紙の「ガツガツ営業するのが苦手な人」という言葉が自分に言われているように感じたからです。短時間のヒアリングでお客様との認識の違いをクリアにすることが、今までの自分は自信がなく逃げ腰で出来ていなかったもので、日頃から多方面にアンテナをはって、情報を取り入れていくことを継続していきます。(斎藤)



印象に残っていることで、「どんな組織でも人で成り立ち、人は人との間で磨かれ、心が通じ合ったときには予想以上に素晴らしい仕事ができます。一度その喜びを知ったなら、誰もが人とつながった仕事や営みの虜になる。」とありました。これから社内でも社外でも、良い人間関係を気付けるように参考にいたします。(稲田)

「強制」ではなく「共生」、「教育」ではなく「共育」を心がけています。

